

令和6年度感染症対応力向上事業 訪問支援

施設名：サンヒルズ広島
施設名：マツダ株式会社マツダ病院

施設長氏名：熊澤 吉起
ICN氏名：宗本 幹枝

施設

平成24年に設立したユニット型特別養護老人ホームです。入居80名、ショートステイ9名の利用者が一人ひとりの個性や生活リズムに応じて生活していただいています。

感染症対応力向上事業 参加の動機

当施設では、これまで新型コロナウイルスのクラスターを経験し、日頃から標準予防策を講じておくことの重要性について、身をもって痛感しました。令和5年5月に感染法上の位置づけが5類に引き下げられ、施設の感染対応も世間と同様に緩和していくことが求められるなか、感染症流入を防ぐためには、改めて標準予防策を徹底していくことが必要と感じました。

実施日	1回目 令和6年7月22日(月)	14:00~15:30
	2回目 令和6年9月2日(月)	14:00~15:00

ラウンドから見えた課題

外部の認定看護師さんとラウンドしたことで、日頃気付かない所まで根拠のある助言をもらった。基本的な感染管理として、アルコール消毒液の継ぎ足で補充や、キッチン周り等の水回りの環境について整理整頓が不十分であること。また、包交車や小測処理室など清潔不潔ゾーンが混在していることから汚染を受けやすい状況になると指摘をもらい今後の取組み課題が明確になりました。

取組み内容

- ①アルコール消毒液の管理
- ②正しい手指消毒の徹底
- ③医務室（包交車、医療廃棄物）の整理整頓

取組み成果

- ①ボトルに交換年月日をラベリングし、偶数月の1日にアルコール消毒液を入れ替える。
- ②消毒液の設置場所に、正しい手指消毒のイラストを掲示。
- ③包交車は衛生材料が汚染しないよう、清潔、不潔が隣接しないよう整理整頓する。
医療廃棄物の容器であることが周囲に分かるよう、バイオハザードマークを見える位置にする。

施設：参加しての感想

訪問支援による課題を施設職員全体で共有した。これまで当たり前になっていたことが、感染源、感染経路につながると理解でき、取組み成果を継続していかなければならないと痛感した。

取組み課題以外にも、ユニット毎で清掃用洗剤（消毒液）、ノロウイルス対応セット、汚物処理室の整理整頓等、スタッフ一同で改善していった。。また、感染予防に関する講義、ガウンテクニックの演習なども最新の知識として学べる良い機会となり、標準予防策に対する意識を高めるきっかけとなった。

これから施設全体で感染力向上に努めていきたい。

ICN：講師としての感想

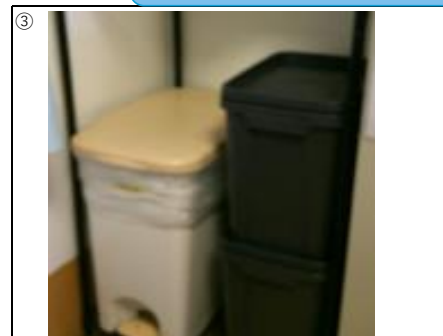
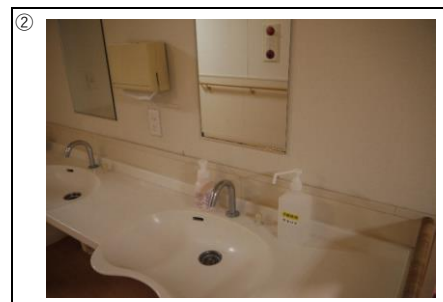
改善前と改善後の2回施設を訪問しラウンドした。施設管理者、看護スタッフの方が中心となり、1か月の短い期間で3つの改善に取り組み、素晴らしいと思った。アルコールの使用開始日や手指衛生のイラスト掲示、感染性廃棄物の掲示など、多職種スタッフの皆様が共通認識できる工夫がされた。また包交車にも手指衛生推進ポスターを掲示し、手指衛生を実施すべきタイミングへの働きかけもされていた。個人防護具着脱・手指衛生の演習を通して、参加されたスタッフが他のスタッフへ伝達され、施設全体の感染対策への意識が向上していると感じた。

施設とスタッフの写真



<取組み前>

写真



<取組み後>

写真

